

私の研究姿勢(1)

具体的な解を求める

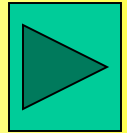
研究とは、科学者の立場から、社会に明確な判断材料を与えることです。

1. サバのまき網漁業とタモ救い網漁業, どちらの影響が大きいのか?
2. エゾシカは何万頭いるのか?
3. ミナミマグロは回復するか?
4. キキョウは絶滅するか?
5. 中池見湿地を守るべきか?

サバのまき網漁業とタモ救い網漁業，どちらの影響が大きいか？

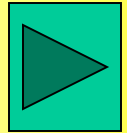
- 九大理・卒研究生・深瀬健次郎君
 - 1980年代，マサバ太平洋系群は激減した。
 - タモ救いは産卵期のサバをとり
 - まき網は索餌期のサバを大量に獲った
 - 繁殖価を用いて計算したところ、1尾あたりの負荷はタモ救いが高いが、たくさんとるまき網の負荷が高いことがわかった
 - [A30] Matsuda H, Fukase K et al.(1996) *Res Pop Ecol* 38(2):219-224.

エゾシカは何万頭いるか？



- 北海道環科研などとの共同研究
- 北海道の行政文書では道東のエゾシカは12万頭（8.4-12.6万頭）と推定していた
- 毎年数万頭ずつ獲っても目立って減らない
- 捕獲情報を考慮し、約20万頭に訂正した
- 北海道は2000年に行政文書で訂正した
- [A47] **Matsuda H**, Uno H et al (2002) *Wildl Soc Bull* **30**(4):1160-1171.

ミナミマグロは回復するか?



- 森光代さんの卒業研究
- 絶滅危惧種に指定されたミナミマグロは、厳しい国際管理でようやく回復し始めた
- 漁獲枠拡大を求め国際裁判まで起こった
- 管理が成功していても、回復は鈍く、再び減る可能性もあり（逆ベビーブーム）、2020年までの数値目標は達成しないと予測した
- [A40] Mori M, Katsukawa T, Matsuda H (2001) *Pop Ecol* **43**:125-132.

キキョウは絶滅するか？

- 九州大学矢原徹一教授らとの共同研究
- 植物分類学会の希少種分布、減少率調査から絶滅リスクを計算した
- 環境省「植物レッドリスト」の判定基準に使われた
- 愛知万博環境影響評価に応用した
- A54 Matsuda H et al (2003) *Chemosphere* in press

中池見湿地を守るべきか？

- 福井県大岡敏弘氏らとの共同研究
- 福井県中池見にLNG備蓄基地建設予定
- 中池見は希少種の宝庫である
- 代替地に作る場合との費用の比較により希少種保全の環境経済学的価値を算出
- その直後、LNG基地計画は中止された
- [A42] Oka T, Matsuda H, Kadono Y (2001) *Risk Analysis* **21**: 1011-1023.